

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1472000932
法人名	有限会社ヒューマンライフサービス
事業所名	グループホーム悠悠苑 平塚事業所
訪問調査日	平成21年2月18日
評価確定日	平成21年4月7日
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

【取り組みの事実】

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

【取り組みを期待したい項目】

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

【取り組みを期待したい内容】

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月14日

【評価実施概要】

事業所番号	1472000932		
法人名	有限会社ヒューマンライフサービス		
事業所名	グループホーム悠悠苑 平塚事業所		
所在地 (電話番号)	神奈川県平塚市大神2108-1 (電 話) 0463-51-5556		
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成21年2月18日	評価確定日	平成21年4月7日

【情報提供票より】(21年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年6月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 12 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 15.2 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2 階建ての 1 階 ～ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	60,000 円		その他の経費 (月額)	43,000 円	
敷 金	有 (無)				
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (324,000 円)		有りの場合 償却の有無	有 (無)	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円	
	夕食	400 円	おやつ	170 円	

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数		18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1		4 名		要介護2	6 名	
要介護3		4 名		要介護4	3 名	
要介護5		1 名		要支援2	0 名	
年齢	平均	82.05 歳	最低	59 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	伊勢原協同病院、菊池内科クリニック、湘南台中央デンタルクリニック 田村皮膚科、丸山神経内科
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

この事業所は、平塚市の東北部で厚木市との行政境の地区に位置し、この地区で唯一のグループホームである。アクセスは平塚駅北口または厚木駅南口から最寄のバス停まで約20分、バス停から事業所まで徒歩3分程度で、住宅地の中に立地している。近くには神社や寺院があり、富士山や丹沢・大山が良く見え、日当たりが良い。玄関右側にデイサービスの事業所が併設されている。
開所当時の職員が作り上げた事業所独自の理念を忠実に実践している。特に、利用者の時間・スローライフを大切にするために、「ゆったりと」利用者の目線に合わせた運営が行われている。ケアカンファレンスを毎日全員で行い、利用者・家族の希望に沿った介護を目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では、特に課題はなかった。開所5年目を迎え、運営推進会議が軌道に乗ってきたこともあり、地域に関わる活動の充実を心がけている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価や外部評価の意義については、会議等を通じ職員に説明し十分認識されている。今回の自己評価は職員全員に記入用紙を配り、1ヶ月の意見聴取・書き込み期間を経て、管理者が集約しまとめた。 昨年と同じ日に調査を受けており、1年に1回振り返るよい機会と受け止めている。
重点項目	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月毎に開催している。構成員は、ユニット毎の家族代表、自治会連合会長、民生委員、地域包括支援センター職員、事業所管理者と主任等である。会議内容は、事業所の主な活動、職員の現況報告、質疑(要望・評価・助言等)である。会議の中では、自治連合会長より災害発生・夜間対応に対し、自治会、社会福祉協議会で連携を取りたいとの発言もあった。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 行事や暮らしぶりの写真と管理者のコメントなどを掲載した「悠悠苑だより」を毎月発行し、家族に郵送している。家族が来訪した際には、その都度利用者の状況を報告し、話し合っている。面会が少ない家族には、電話連絡等で近況を報告をしている。玄関には「皆様のお声をお聞かせ下さい」と記した用紙が置いてあるが、これまで意見・苦情はない。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) この地区で唯一のグループホームであることを自覚し、地域との付き合いは、積極的にしている。現在では公民館祭り、盆踊り大会、どんど焼き、町ぐるみ清掃への参加や、ボランティア(日本舞踊・民謡等)催事、近所の保育園児との交流などが行われている。 行政からの要請を受け、地域住民を対象に公民館で「認知症への理解」についての勉強会も開催している。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所当時の職員が話し合い、事業所独自の理念として「ゆったりと(態度・言葉)・心穏やかに(生活・人生)・尊厳を大切に(ハート・愛)・笑顔あふれる日々(利用者様、スタッフ、地域)」を作りあげている。特に、利用者の時間・スローライフを大切にするために、「ゆったりと」を重視している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を毎日朝の申し送り時(1階・2階フロアー合同で15分、各フロアーで約10分)に復唱している。理念を名札裏にも記載し、理念の共有化と実践時に迷った際の拠りどころとしている。理念のほか職員の心構えを記した倫理規程を玄関などの見やすい場所に掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所として平塚市大神第2自治会の賛助会員になっている。地域との付き合いは開所時に比べ多くなり、現在では公民館祭り、盆踊り大会、どんど焼き、町ぐるみ清掃への参加やボランティア(日本舞踊・民謡など)催事、近所の保育園児との交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価の意義については、会議などを通じ十分認識されている。今回の自己評価は職員全員に記入用紙を配り、1ヶ月の意見聴取・書き込み期間を経て、管理者が集約し、まとめた。外部評価の内容は玄関にファイルとして置き誰でも見ることができる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に開催している。構成員は、ユニット毎の家族代表、自治会連合会長、民生委員、地域包括支援センター職員、事業所管理者と主任などである。会議内容は、事業所の主な活動、職員の現況報告、質疑(要望・評価・助言など)である。自治会連合会長より災害発生・夜間対応に対し、自治会、社会福祉協議会で連携を取りたいとの発言もあった。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所の担当課である介護保険課・生活福祉課とは、課題が発生した際に相談している。地域包括支援センターの職員とは、運営推進会議の開催にあたって連絡を密にしている。事業所に市の介護相談員を月2回招き、利用者との相談に応じる機会を作っている。利用者の美術館見学もこの相談により実施されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	行事や暮らしぶりの写真と管理者のコメントを掲載した葉書形式の「悠悠苑だより」を毎月発行し、家族に郵送している。家族が来訪した際には、その都度利用者の状況を報告している。日々の金銭管理(1~2万円)は収支をノートに記入し、毎月明細を家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪した時によく話し合っている。面会が少ない家族には、電話連絡や毎月の「悠悠苑だより」に添え書きなどして報告をしている。 玄関には意見箱の上に「皆様のお声をお聞かせ下さい」と記した用紙があるが、これまで意見・苦情はない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	顔なじみの職員による支援を心がけている。職員と利用者で顔なじみの関係を作るために、職員・利用者全員の触れ合い、レクリエーションの機会を多くしている。各フロアの職員の年代が偏らないように配慮している。やむを得ず退職する場合は、利用者のダメージを防ぐように職員間でフォローしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リーダー講習、アセスメント・ケアプラン、認知症関連、介護技術などの外部研修に必要な応じ参加している。研修支援策として、研修費、交通費のほかに研修時給を支払う制度がある。参加した職員は研修内容をレポートにして提出し、会議などで報告している。研修に関して雇用形態での差は無く、パート職員も参加できる。	○	各職員が段階に応じて力をつけられるよう、研修計画を作成し、計画的に研修を実施する体制が作られるとさらに良い。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平塚市のグループホーム連絡会に参加している。連絡会は、偶数月に開かれ、幹事役は各事業所が持ち回り、市の介護保険課、社会福祉協議会も参加している。議題は、課題発表や意見交換などが主である。社会福祉協議会主催の地域介護システム会議にも出席している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居までの大まかな順序は、相談、申し込み、自宅訪問アセスメント記入、主治医診断書提出、職員判定会での書面審査、入居決定となっている。その間に家族と見学に来てもらっている。体験入居はしていないが、隣接のデイサービス事業所を利用し、徐々に馴染めるようにしている。入居に関し家族と事業所で十分な話し合いをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の趣味や得意な事などの話を聞きながら、出来ることは自分でしてもらうように努めている。出来る範囲で食器拭き、片付け、洗濯ものたたみ、掃除などを手伝ってもらっている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向については、入居時の「フェースシート」「アセスメント表」をベースに、家族の来訪時に聞いた話や日常のケアの中で気づいた点を、「個人生活情報」に追加・整理して把握に努めている。意思疎通が困難な利用者については、動作や顔の表情から意向を読み取り、その内容を記録して共有化を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	フロアごとにケアカンファレンスを毎日午後開催し、利用者の状況について全員で意見を交わし検証している。その結果を踏まえて、利用者の担当者がケアプランの原案をつくり、家族や本人、必要により医師の意見を聞いたうえで、最終的な意見交換を図って作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居時は暫定のケアプランを作り、入居後1ヶ月はそのプランを使用している。その後は、毎日のカンファレンスにおいて、ケアプランを検証し、3ヵ月毎に見直しを行っている。著しい変化が生じた場合や退院後は、臨時のカンファレンスを開催して、現状に即したプラン内容に変更している。プランは改善目標項目を絞り、具体的なものになっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定を受けている。隣接して認知症対応型デイサービス悠悠苑平塚事業所がある。訪問診療は内科、神経内科、歯科がある。看護師はデイサービスと兼務しているが、主に健康管理・予防指導に当たっている。協力施設機関として、介護老人保健施設「たかつ」があり、同一法人グループのグループホームとの連携もとられている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医には1名がかかっている。利用者のほとんどは、週1回の歯科医・内科医、月2回の神経内科医の訪問診療を受けている。内科医が健康診断や血液検査を行い、栄養面でのチェックも行われている。希望する医療機関との連絡・受診手続き・通院介助などの支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応に関する指針」があり、家族に説明し同意を得ている。指針の骨子は①急性期における医師や医療機関との連携体制 ②入院期間中の費用等 ③看取りに関する考え方と家族との話し合いである。重度化の際は医師、家族を含め密に話し合いをしている。これまでに看取り準備をした経験はある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	事業所独自の倫理規程があり、その一部に「全ての高齢者の尊厳と権利を擁護します。職務上知りえた情報について一切の秘密を守ります」を掲げている。個人情報に関する書類は常時施錠の事務室に保管されている。一方、個人データの開示を求める申請書も玄関に備えられている。利用者に対しては、特に排泄に関する声かけに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	標準的な1日のスケジュールはあるが、起床や就寝時間は利用者のペースに合わせて柔軟に対応している。薬を飲む時間などは医師の処方に従っている。昼食は、出来る限り部屋にこもらず他の利用者と顔を合わせるよう声をかけている。現在は喫煙や晩酌をする利用者はいないが、行事の際に皆でビールなどを飲むことはある。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	平日の5日間は食材の配達を業者に委託（フロアにより業者が違う。献立、レシピ付き）し、職員が調理している。土・日曜日は、利用者も近くのスーパーに同行して食材を購入し、好みの献立を調理し楽しんでいる。職員と利用者は、配膳・片付けも一緒に行い、同じものを自分の茶碗・箸で食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日お風呂を沸かし、入浴時間は10時から17時頃までとしている。入浴日は決めていないが、1週間に最低2回入るように声かけしている。毎日入る利用者もいる。入浴したがない利用者には、プレッシャーにならないような形での声かけ誘導や、家族来訪時に家族と一緒に入浴を勧めるなどの対応をしている。必要な方には同性介助もしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活経験や趣味歴を参考に、散歩、買物、温泉、美術館への外出などの支援をしている。日本舞踊、民謡、ハワイアンを演じるボランティアや近隣の保育園児の来訪を受け、皆で楽しむ機会がある。季節行事としては初詣、節分、雛祭り、お花見、七夕、花火大会、盆踊り、お月見、クリスマス会などがある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な外出としては、スーパーでの食材購入、寺の境内や公園などへの散歩のほかに、車で回転寿司、コーヒーショップやスーパー銭湯に行く機会もある。季節感を体験するために、春は厚木の防災の丘公園の桜、初夏は伊勢原あやめの里、秋は馬入川沿いのコスモスなどに出向いている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関、ユニット扉、居室の鍵はかけていない。夜の玄関は防犯のため施錠している。各フロアにはセンサーがある。居室は夜間、施錠している方もいる。過去には、職員が気づかないうちに外出したケースもあったが、施錠は行動の抑制に繋がると判断し、現在のシステムにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力（年1回）を得て、避難訓練などを行っている。防災関係のマニュアルや連絡網などは整備されている。備蓄食・水は2日分を用意している。運営推進会議の中で地域からの協力体制の確立が提起され、自治会連合会長から検討したい旨の発言もあったが、具体的な実施には、まだ至っていない。	○	近年、事業所への理解が進み、自治会などが前向きな姿勢を見せているので、新自治会などの協力を得て、災害時の地域との協力体制を確立することが望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取量を表にまとめ、チェックしている。現在、栄養面で特に注意を要する方はいない。1日の摂取カロリーは1500kcal、水分は1日1000ccを目標としている。水分摂取量の少ない利用者には声かけを常時している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼リビングの床は、当初フローリングであったが、利用者の要望を受け、現在は畳敷きとなっている。リビングの席には自由に座っている。1、2階の各廊下にはソファが置かれている。トイレは2箇所あり、その内の1箇所は浴室につながっている。季節の花を飾るほか、過去のイベント時の写真が掲示してある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはクーラーと照明、大型のクローゼットが用意されている。カーテン、ベット、整理たんす、仏壇、椅子、テレビ、本、写真などや好みの物が持ち込まれ、好きな配置で住みやすいように工夫している。季節の衣類交換や整理整頓は職員とともにやっている。特に寝具はいままで使い慣れたものを持ち込むことを勧めている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
Ⅰ. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
Ⅴ. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

【取り組みの事実】

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

【取り組んでいきたい項目】

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

【取り組んでいきたい内容】

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（№1から№87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（№88から№100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 悠悠苑 平塚事業所
（ユニット名）	1階
所在地 （県・市町村名）	神奈川県 平塚市
記入者名 （管理者）	高橋 千賀子
記入日	平成 21年 1月 20日

地域密着型サービス評価の自己評価票 ユニット1階

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ゆったりと(態度・言葉)・心穏やかに(生活・人生)・尊厳を大切に(ハート・愛)・笑顔あふれる日々(利用者様・スタッフ・地域)の4つの理解されやすい理念を作り上げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日朝の申し送り時に確認の意味で復唱している。名札の裏理念を入れてある。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	パンフレットの表紙に一つの言葉として記載している事、見やすい場所に掲示している。運営推進会議等で話している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	買い物・散歩時には、近隣の方からこちらに挨拶してくれます。施設に突然見学等に来ても、お茶を出してゆっくりとして頂いている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公民館祭り・盆踊り大会・街ぐるみ大清掃等、出来るだけ参加させて頂いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	道路に面した入りやすい併設のデイサービスを窓口にして、近所の方が遊びに來たり、見学等に來られた場合、気兼ねなく案内をしている。		
3. 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	1年に1回自己の関わりを振り返るよい機会となっている。出来てない点を少しずつ改善している		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で家族・自治会・市相談員・地域包括からの意見や要望等を聴き、反映出来るようにサービスの向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	平塚市介護相談員を月2回受け入れている。社会福祉協議会主催のグループホーム連絡会に参加している。(介護保険課の方同席)		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	個々に学習している。2名制度を活用している。	○	職員向けの外部研修に参加し勉強していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習会に参加していて、研修報告により不参加者へ情報を共有している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関して、管理者が、ご家族・本人に説明し納得理解の上で入居して頂いている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見や要望を聞き入れ毎日の生活に反映させている。また、平塚市介護相談員を月2回受け入れ、各利用者様毎にお話しされている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	苑の通信や必要に応じ個々に連絡し、報告を行なっている。お小遣い帳についても、定期的にご家族に確認していただいている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情窓口の説明をして、その都度ご家族の意見を聞いている。玄関に意見箱も設置している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議・ユニット会議や意向調査表(運営者宛)・アンケートで意見・提案を聴く機会を設けている。個々面談を行っている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	可能な限り調整している。また他ユニット・デイサービスとの連携での協力体制も出来ている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等による不安を利用者様に持たせないように配慮している。合同のレクリエーション等企画し、交流を図っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を設けている。リーダー講習会に参加している。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平塚市のグループホーム連絡会など交流を含めている。地域介護システム会議主催の研修に参加している。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年2回 デイサービスとの合同で親睦会を実施している。運営者・管理者と三者面談を実施している。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	意向調査表・アンケートや会議等で状況を把握している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	一対一での対応・外出をし、話を聞く場を常に設け、傾聴・共感し不安を解消するよう努力している。	○	対応できる時間をさらに増やしていきたい。
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会や電話により、家族の方の不安や求めている事を聴く機会を作り努力している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者が問合せ・見学に対応し、どのようなサービスが必要か見極め支援している。カンファレンスを行いケアプランを立てている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	出来るだけ、家族と見学に来て頂いている。管理者・計画作成担当者が本人のご自宅を訪問し情報収集して、アセスメントシートを記入している。デイサービスを利用して頂き、徐々に馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の趣味や得意な事などの話を聞きながら、出来る事は自分でして頂くように努めている。利用者の言葉から学ぶ姿勢をとり、支えあう関係を築くように努力している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との関係を密にして、お互いに理解しあう努力をしている。誕生会などの参加の呼び掛けをしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人及びご家族の申し出には必ず応じ、ご家族との結びつきを大切にしている。行事等へ家族の参加の呼び掛けをしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・友人・親類等から電話があればご本人に代わったり、こちらから電話を掛けたりしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士に任せたり介入したりと、職員は常に仲介の立場で入居者間で支え合えるよう支援している。	○	利用者同士の関係でストレスが溜まってしまう利用者に対しての対応、個人対応する時間を増やしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用 (契約) が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご家族の方が、他の利用者様に会いに来たり、転居先に訪問している。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	健康管理・安全確保に留意し、ご本人の希望を聞いて支援している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの段階から一人一人の生活歴を把握している。長年の生活を壊さず、その上に積み重ねるサービスを行なっている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの出来る事、有する力を把握しているが、変化もあるのでその都度職員間で情報交換している		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを全員で行ってケアプランを作成している。ご本人・家族の希望に沿ったプランを作成し実施している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の見直し、または入居者に変化があればその都度見直し作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録、報告や伝達により実施している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスを活用している。他ユニットとの交流を深め、支援に役立てている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員に運営推進会議に参加して頂き連携を取っている。	○	アピールして各関係機関と協力し合いたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	連携を取り、必要に応じて支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて行なっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問医療により適切な治療を受けている。状況に応じ家族との連携も取っている、。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	往診等でかかりつけ医に相談をしている。母体の相模湖病院もあり、相談できる体制がある。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設のデイサービスの看護師と連絡・連携を取り合い支援している。週1回 看護師の出勤があり、いつでも相談できる。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	情報交換を実施している。退院指導等に同席させて頂いている。利用者と一緒にお見舞いに出掛けている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方についての同意書を頂いている。主治医・家族と連携を密にしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者の状況に応じて主治医の指示や本人・家族の意向をふまえ、職員間の話し合いケアカンファレンスを通して重度化の変化への対応をしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご本人が別の場所へ移り住む際は、不安を減らし、新しい環境に慣れるように、それまでの生活状況等を、ケア関係者間で十分な情報交換を行なっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員一人一人が気を付けているが、声掛けの工夫が必要と思われる。	○	職員間で注意し合う。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その都度丁寧に声掛けて、支援している。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望に沿って実施しているが、完全に全員が出来ているとは思えない。	○	本人のペースを大切に、希望に沿った支援が出来るように取り組んでいく。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご本人の希望に沿って実施している。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備・片付けをしている。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人一人の状況に合わせて支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄能力と排泄パターンを把握して、声掛け誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を決めず、拒否される方には無理には勧めず、声掛けを工夫したりして何時でも入浴が出来るように支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の意思に任せている。意思を表せない利用者には、様子観察をして必要に応じた対応をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事への参加、行事の作業等、一人ひとりの力を活かした役割をもっている。音楽・散歩等で気分転換をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が必要とするものの希望を聞き入れ一緒に買いに行く。お金は職員が管理している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や季節の花を見に出掛けるように支援している。外ベンチに自由に出て寛いでいる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お花見・七夕祭り等に出掛けている。個別には美術館・温泉等に出掛けている。	○	ご家族に参加して頂ける外出を計画していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたり、手紙のやり取りをしている。	○	近況報告等を兼ねた手紙のやりとりが定期的に出来るように取り組んで行きたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に来訪され、ご本人と居室等で会話され過ごされている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないケアが出来ている。万が一行う場合は、緊急に身体拘束委員会を開き検討する。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜(防犯の為)や外出(全員での)以外は鍵を掛けていない。居室については夜間ご自身で鍵を掛けている方がいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に利用者の所在や様子を把握しており、変わった様子があれば申し送り等で情報交換をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は無くすのではなく、見えない所や手の届かない所へ保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	努力し実施している。事故防止対策係をつくり事故防止に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成している。急変等があれば、連絡網により職員に伝えたり、警察・消防消防署へ連絡するよう訓練している。	○	定期的に講習会や訓練を受ける。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	苑内での避難訓練は実施している。地域の働きかけはまだ出来ていない。	○	自治会等へ協力と訓練の実施
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	起こりうるリスクについてはご家族等に説明し、その都度対応策を話し合い、抑圧感のない暮らしが送れるように努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	異常に気づいた際には速やかに管理者・看護師・かかりつけ医に連絡し、対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をカードックスにファイルし、一人一人の薬の目的や、副作用を理解するように努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日出来るだけ牛乳・乳製品を取り入れている。便秘が続くようであれば下剤を服薬している。散歩の働きかけも行なっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアと義歯洗浄を行なう等、個々に対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取を表にまとめている。また、一人一人の状態や、習慣に応じた支援をしているが水分量の少ない利用者がある。	○	水分摂取量の少ない人は、ケアプランに挙げて取り組んでいる。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	日頃より環境整理、衛生管理（予防接種）を実施している。手洗い・うがいを励行し、来訪者にも協力を呼びかけている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手指及び、調理器具の消毒・食材のチェック等、保管場所の管理を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施錠せず開放している。季節に応じた樹木や草花を植えている。デイの玄関に表示あり	○	デイの玄関に表示あり
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた装飾を行っている、リビングの席は自由に選んで頂いている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に過ごされる場所（一人になれる場所）や雰囲気作りを行なっている。外のベンチを自由に利用している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は各個人の部屋なので、使い慣れた物や、ご本人の好みの家具・品物を好きな配置で住みやすいように工夫している。整理整頓をスタッフと共に行なっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のとどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日常的換気を行い、空調の管理も行なっている。室温計を数箇所に設置している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人に応じた寝具（ベット・布団）、家具等の設置及びテレビやラジオの使用。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人に応じた作業をして頂くことにより、一員として役立っていると感じていただける支援を行なっている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関にベンチを設けて、外気浴や花に水をやりたりして楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目 ユニット1階			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	☐	①ほぼ毎日のように
		☐	②数日に1回程度
		☐	③たまに
		☐	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	☐	①大いに増えている
		☐	②少しずつ増えている
		☐	③あまり増えていない
		☐	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	☐	①ほぼ全ての職員が
		☐	②職員の2/3くらいが
		☐	③職員の1/3くらいが
		☐	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	①ほぼ全ての利用者が
		☐	②利用者の2/3くらいが
		☐	③利用者の1/3くらいが
		☐	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	①ほぼ全ての家族等が
		☐	②家族等の2/3くらいが
		☐	③家族等の1/3くらいが
		☐	④ほとんどできていない

[特に力を入れている点・アピールしたい点]

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者と職員でゆっくり、のんびり過ごしています。認知症が進み、不穏になる方への対応、馴染みの関係から生じる、依存・ストレス等への対応を日々カンファレンスを行い、情報交換、対応策の検討を行っています。また、医師への相談等行い穏やかに暮らして頂けるよう支援しています。歌・レクレーションを通して、他ユニットとの交流が深められ、気分転換に役立っています。個別レクを行い、希望に応じた外出等を心がけています。お誕生日会等、ご家族に参加をお願いし、一緒に楽しんで頂いています。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

【取り組みの事実】

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

【取り組んでいきたい項目】

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

【取り組んでいきたい内容】

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（№1から№87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（№88から№100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 悠悠苑 平塚事業所
(ユニット名)	2階
所在地 (県・市町村名)	神奈川県 平塚市
記入者名 (管理者)	高橋 千賀子
記入日	平成 21年 1月 20日

地域密着型サービス評価の自己評価票 ユニット2階

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ゆったりと(態度・言葉)・心穏やかに(生活・人生)・尊厳を大切に(ハート・愛)・笑顔あふれる日々(利用者様・スタッフ・地域)の4つの理解されやすい理念を作り上げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日朝の申し送り時に確認の意味で復唱している。名札の裏理念を入れてある。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	パンフレットの表紙に一つの言葉として記載している事、見やすい場所に掲示している。運営推進会議等で話している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	買い物・散歩時には、近隣の方からこちらに挨拶してくれます。施設に突然見学等に来ても、お茶を出してゆっくりとして頂いている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公民館祭り・盆踊り大会・街ぐるみ大清掃等、出来るだけ参加させて頂いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	道路に面した入りやすい併設のデイサービスを窓口にして、近所の方が遊びに來たり、見学等に來られた場合、気兼ねなく案内をしている。		
3. 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	1年に1回自己の関わりを振り返るよい機会となっている。出来てない点を少しずつ改善している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で家族・自治会・市相談員・地域包括からの意見や要望等を聴き、反映出来るようにサービスの向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	平塚市介護相談員を月2回受け入れている。社会福祉協議会主催のグループホーム連絡会に参加している。(介護保険課の方同席)		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	個人的に勉強している職員はいるが、全職員で学んでいない。	○	職員向けの外部研修に参加し勉強していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習会に参加していて、研修報告により不参加者へ情報を共有している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関して、管理者が、ご家族・本人に説明し納得理解の上で入居して頂いている。		
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見や要望を聞き入れ毎日の生活に反映させている。また、平塚市介護相談員を月2回受け入れ、各利用者様毎にお話しされている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	苑の通信や必要に応じ個々に連絡し、報告を行なっている。お小遣い帳についても、定期的にご家族に確認していただいている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情窓口の説明をして、その都度ご家族の意見を聞いている。玄関に意見箱も設置している。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議・ユニット会議や意向調査表(運営者宛)・アンケートで意見・提案を聴く機会を設けている。個々面談を行っている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	可能な限り調整している。また他ユニット・デイサービスとの連携での協力体制も出来ている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等による不安を利用者様に持たせないように配慮している。合同のレクリエーション等企画し、交流を図っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を設けている。リーダー講習会に参加している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平塚市のグループホーム連絡会など交流を含めている。地域介護システム会議主催の研修に参加している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年2回 デイサービスとの合同で親睦会を実施している。運営者・管理者と三者面談を実施している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	意向調査表・アンケートや会議・面談等で状況を把握している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	一対一での対応・外出をし、話を聞く場を常に設け、傾聴・共感し不安を解消するよう努力している。	○	対応できる時間をさらに増やしていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会や電話により、家族の方の不安や求めている事を聴く機会を作り努力している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者が問合せ・見学に対応し、どのようなサービスが必要か見極め支援している。カンファレンスを行いケアプランを立てている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	出来るだけ、家族と見学に来て頂いている。管理者・計画作成担当者が本人のご自宅を訪問し情報収集して、アセスメントシートを記入している。デイサービスを利用して頂き、徐々に馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の趣味や得意な事などの話を聞きながら、出来る事は自分でして頂くように努めている。利用者の言葉から学ぶ姿勢をとり、支えあう関係を築くように努力している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との関係を密にして、お互いに理解しあう努力をしている。誕生会などの参加の呼び掛けをしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人及びご家族の申し出には必ず応じ、ご家族との結びつきを大切にしている。行事等へ家族の参加の呼び掛けをしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・友人・親類等から電話があればご本人に代わったり、こちらから電話を掛けたりしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士に任せたり介入したりと、職員は常に仲介の立場で入居者間で支え合えるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用 (契約) が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご家族の方が、他の利用者様に会いに来たり、転居先に訪問している。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望、意向は大切にしているが、上手く表現等できない人もいるので、何気ない会話に耳を傾けたり、表情等から汲み取る努力している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの段階から一人一人の生活歴を把握している。長年の生活を壊さず、その上に積み重ねるサービスを行なっている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの出来る事、有する力を把握しているが、変化もあるのでその都度職員間で情報交換している		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを全員で行ってケアプランを作成している。ご本人・家族の希望に沿ったプランを作成し実施している。	○	更に、職員間の情報交換・意見交換に努めて行きたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の見直し、または入居者に変化があればその都度見直し作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録、報告や伝達により実施している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスを活用している。他ユニットとの交流を深め、支援に役立てている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員に運営推進会議に参加して頂き連携を取っている。	○	アピールして各関係機関と協力し合いたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	連携を取り、必要に応じて支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて行なっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問医療により適切な治療を受けている。状況に応じ家族との連携も取っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	往診等でかかりつけ医に相談をしている。母体に相模湖病院もあり、相談できる体制がある。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設のデイサービスの看護師と連絡・連携を取り合い支援している。週1回 看護師の出勤があり、いつでも相談できる。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際は普段の様子を報告し情報交換に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方についての同意書を頂いている。主治医・家族と連携を密にしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者の状況に応じて主治医の指示や本人・家族の意向をふまえ、職員間の話し合いケアカンファレンスを通して重度化への対応をしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご本人が別の場所へ移り住む際は、不安を減らし、新しい環境に慣れるように、それまでの生活状況等を、ケア関係者間で十分な情報交換を行なっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員一人一人が気を付けているが、声掛けの工夫が必要と思われる。	○	職員間で注意し合う。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その都度丁寧に声掛けて、支援している。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望に沿って実施しているが、完全に全員が出来ているとは思えない。	○	本人のペースを大切に、希望に沿った支援が出来るように取り組んでいく。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご本人の希望に沿って実施している。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備・片付けをしている。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の状況に合わせて支援している。 その日食べたいおやつを買って来たりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄能力と排泄パターンを把握して、声掛け誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間の希望に応じて対応している。拒否される方には無理には勧めず、声掛けを工夫したりして何時でも入浴が出来るように支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の意思に任せている。意思を表せない利用者には、様子観察をして必要に応じた対応をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事への参加、行事の作業等、一人ひとりの力を活かした役割をもっている。散歩・買い物等毎日出掛けている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が必要とするものの希望を聞き入れ一緒に買いに行く。お金は職員が管理している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や季節の花を見に出掛けるように支援している。外ベンチに自由に出て寛いでいる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お花見・七夕祭り等に出掛けている。個別には外食等に出掛けている。	○	ご家族に参加して頂ける外出を計画していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたり、手紙のやり取りをしている。	○	近況報告等を兼ねた手紙のやりとりが定期的に出来るように取り組んで行きたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に来訪され、ご本人と居室等で会話され過ごされている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないケアが出来ている。万が一行う場合は、緊急に身体拘束委員会を開き検討する。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜(防犯の為)や外出(全員での)以外は鍵を掛けていない。居室については夜間ご自身で鍵を掛けている方がいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に利用者の所在や様子を把握しており、変わった様子があれば申し送り等で情報交換をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は無くすのではなく、見えない所や手の届かない所へ保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	努力し実施している。事故防止対策係をつくり事故防止に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成している。急変等があれば、連絡網により職員に伝えたり、警察・消防消防署へ連絡するよう訓練している。	○	定期的に講習会や訓練を受ける。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	苑内での避難訓練は実施している。地域の働きかけはまだ出来ていない。	○	自治会等へ協力と訓練の実施
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	起こりうるリスクについてはご家族等に説明し、その都度対応策を話し合い、抑圧感のない暮らしが送れるように努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	異常に気づいた際には速やかに管理者・看護師・かかりつけ医に連絡し、対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をカードックスにファイルし、一人一人の薬の目的や、副作用を理解するように努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日出来るだけ牛乳・乳製品を取り入れている。便秘が続くようであれば下剤を服薬している。散歩の働きかけも行なっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアと義歯洗浄を行なう等、個々に対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取を表にまとめている。また、一人一人の状態や、習慣に応じた支援をしているが水分量の少ない利用者がある。	○	水分摂取量の少ない人は、ケアプランに挙げて取り組んでいる。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	日頃より環境整理、衛生管理（予防接種）を実施している。手洗い・うがいを励行し、来訪者にも協力を呼びかけている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手指及び、調理器具の消毒・食材のチェック等、保管場所の管理を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施錠せず開放している。季節に応じた樹木や草花を植えている。デイの玄関に表示あり。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた装飾を行っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に過ごされる場所（一人になれる場所）や雰囲気作りを行なっている。外のベンチを自由に利用している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は各個人の部屋なので、使い慣れた物や、ご本人の好みの家具・品物を好きな配置で住みやすいように工夫している。整理整頓をスタッフと共に行なっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のとどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日常的換気を行い、空調の管理も行なっている。室温計を数箇所に設置している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人に応じた寝具(ベット・布団)、家具等の設置及びテレビやラジオの使用。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人に応じた作業をして頂くことにより、一員として役立っていると感じていただける支援を行なっている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関にベンチを設けて、外気浴や花に水をやったりして楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目 ユニット2階

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	☐	①ほぼ全ての利用者の
		☐	②利用者の2/3くらいの
		☐	③利用者の1/3くらいの
		☐	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	☐	①毎日ある
		☐	②数日に1回程度ある
		☐	③たまにある
		☐	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	☐	①ほぼ全ての利用者が
		☐	②利用者の2/3くらいが
		☐	③利用者の1/3くらいが
		☐	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	☐	①ほぼ全ての利用者が
		☐	②利用者の2/3くらいが
		☐	③利用者の1/3くらいが
		☐	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	☐	①ほぼ全ての利用者が
		☐	②利用者の2/3くらいが
		☐	③利用者の1/3くらいが
		☐	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	☐	①ほぼ全ての利用者が
		☐	②利用者の2/3くらいが
		☐	③利用者の1/3くらいが
		☐	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	☐	①ほぼ全ての利用者が
		☐	②利用者の2/3くらいが
		☐	③利用者の1/3くらいが
		☐	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	☐	①ほぼ全ての家族と
		☐	②家族の2/3くらいと
		☐	③家族の1/3くらいと
		☐	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

[特に力を入れている点・アピールしたい点]

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者と職員でゆっくり、のんびり過ごしています。認知症が進み、不穏になる方への対応、馴染みの関係から生じる、依存・ストレス等への対応を日々カンファレンスを行い、情報交換、対応策の検討を行っています。また、医師への相談等行い穏やかに暮らして頂けるよう支援しています。歌・レクレーションを通して、他ユニットとの交流が深められ、気分転換に役立っています。個別レクを行い、希望に応じた外出等を心がけています。お誕生日会等、ご家族に参加をお願いし、一緒に楽しんで頂いています。